

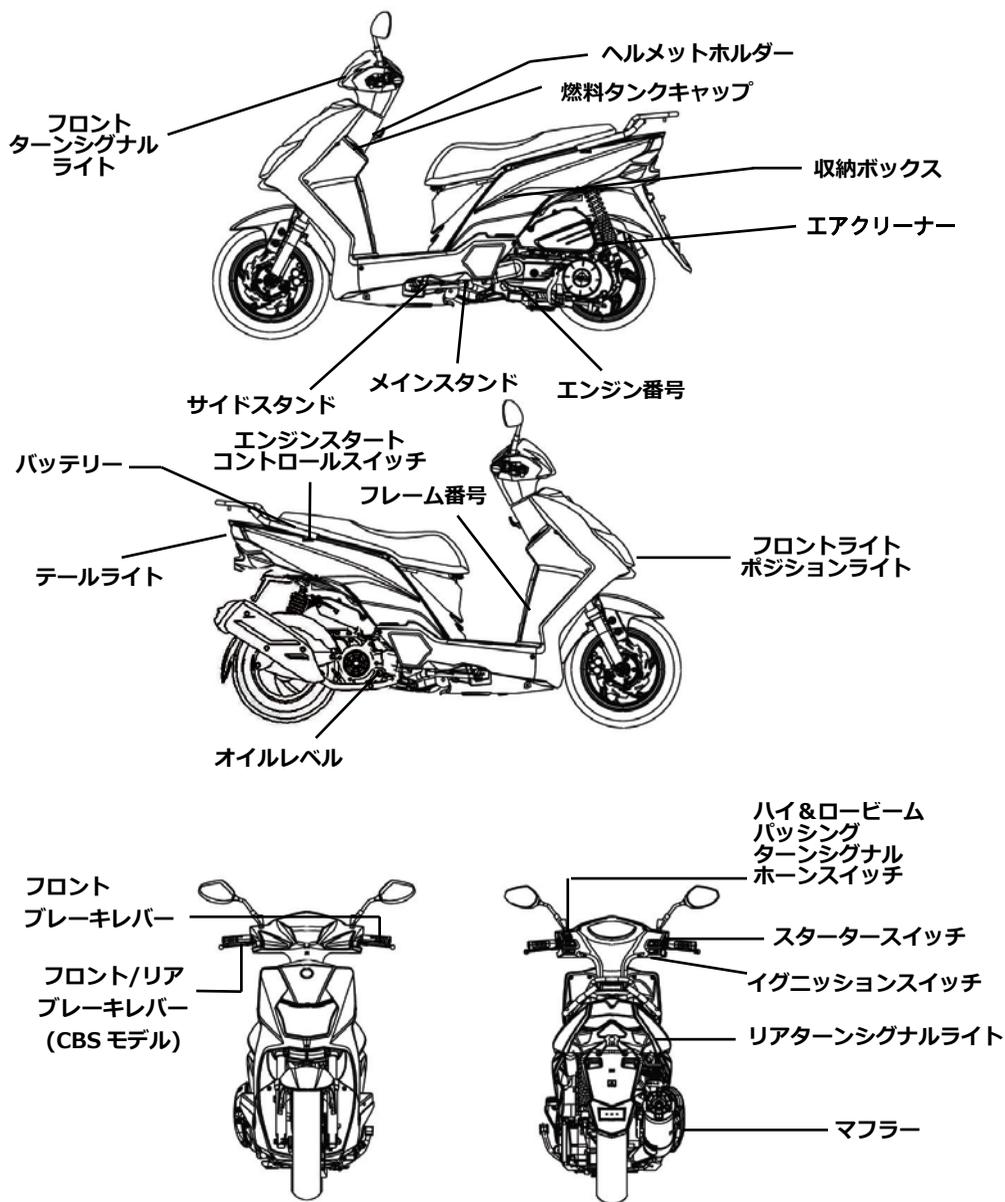
1.目次

1. 目次	1
2. 操作各部の位置と名称	3
3. お乗りになる前に	4
4. 安全運転	4
5. 運転	5
6. 純正部品の使用	5
7. 各部の操作方法	6
ゲージ類	6
イグニッションスイッチの操作方法	7
ハンドルロックスイッチの操作方法	7
燃料キャップスイッチの操作方法	7
ボタン類の操作について	8
荷物入れ	9
ヘルメットホルダー	10
燃料タンクキャップ	10
ブレーキ	10
8. エンジン始動時の注意点	11
9. 安全に発進させるには	12
スロットルの操作	12
駐車方法	12
10.乗車前点検とメンテナンス	13
乗車前点検事項	13
エンジンオイルの点検と交換	13
燃料の点検	14
トランスミッションオイルの点検と交換	14
ブレーキの遊びの点検と調整	15
ディスクブレーキの点検(モデルに依り)	16
スロットルの遊びの点検と調整	17
バッテリーの点検とメンテナンス	17
タイヤの点検	18
ハンドルとフロントショックアブソーバーの点検	18
ヒューズの点検と交換	19
ターンシグナルライトとホーンの点検	19
前照灯と尾灯の点検	19
ブレーキランプの点検	19

1.目次

燃料漏れの点検	20
可動部の潤滑と点検	20
スパークプラグの点検	20
エアクリーナーの点検	20
11. 異常やトラブルが発生したときに	21
エンジンが始動しないときの診断	21
12. 燃料について	21
13. トランスミッションオイル	21
14. オートバイに乗るときの注意	22
15. 定期点検スケジュール.....	23
16. 諸元	24

2. 操作各部の位置と名称



3.お乗りになる前に

このマニュアルは、安全運転や簡単な点検の仕方などを含む、車両の正しい使用方法について説明しています。

快適で安全な運転のために、このマニュアルを注意深くお読みください。

より詳しくは、SYM 正規販売店にお尋ねいただくか、操作（作業）マニュアルの以下の項目をお読みください。

- 車両の正しい使用方法
- 納車整備とメンテナンス

お引き立ていただき誠にありがとうございます。

車両のパフォーマンスを最高に保つために、定期点検やメンテナンススケジュールは正しく行ってください。

新車ご購入後、走行距離が 300 キロになりましたら、販売店にお持ち込みいただき初回点検を受けてください。その後は、走行距離 1000 キロ毎に定期点検を行うことをお勧めします。

- 実際の車両の仕様や構造は、オーナーズマニュアルの写真や図と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

4. 安全運転

運転に適した正しい服装で乗車し、道路・交通状況をよく把握しながら、焦らず余裕をもって運転することが大事です。

初めのうちは注意しながら乗っていても、運転に慣れてくると油断ができてきて事故を起こしやすくなる傾向にありますのでご注意ください。

覚え書き

- 運転するときは必ずヘルメットを装着し、顎ひもは正しくきちんと締めてください。
- 袖口の広いものや緩い服装は走行時に風を受けて広がり、安全運転に支障をきたす恐れがありますのでお気をつけください。
- 袖口の締まったものをご着用ください。
- ハンドルは両手で持ち、片手運転は絶対にしないでください。
- 制限速度を守ってください。
- 運転に適したシューズを着用してください。
- 定期点検やメンテナンスのスケジュールを守ってください。

警告!!

- 同乗者がマフラーで火傷をしないように、同乗者を乗せる場合はきちんと足をステップにかけるようにしてください。
- 走行直後はマフラーが非常に熱くなっています。走行後に点検やメンテナンスをするときはお気をつけください。
- 走行直後はマフラーが非常に熱くなっています。車両を駐車させるときは周りの人が火傷を負わないように安全な場所に停めるようにしてください。

注意:

車両の改造は、構造やパフォーマンスに影響を与え、エンジン性能の低下やマフラーからの異音を引き起こし、車両の寿命を縮める原因となります。

さらに、改造はオリジナルデザインや仕様に適合しない違法行為です。

改造車両には保証が適応されなくなりますので、車両の改造は行わないでください。

5. 運転

- 運転するときはリラックスして快適な姿勢を保ち（腕、手のひら、腿やつま先など関係する身体の部位）、常に不測の事態に対応できるようにしましょう。
- ライディングの姿勢は安全運転に大きく影響します。重心はいつもシートの中心にくるようにします。重心がシートの後ろにかかってしまうと、前輪への荷重が減りハンドル操作が不安定になり非常に危険です。
- カーブでは曲がる方向に身体を傾け、オートバイと同軸になるように傾斜させながら曲がります。
- オートバイは、でこぼこ道や舗装されていない道路では、非常にコントロールが難しい乗り物です。道路の状況をあらかじめよく把握し、スピードを落として肩の力を上手く使いながらコントロールするようにしてください。
- 運転の安全やハンドルの操作性を妨げないように、足元には必要以上の荷物を置かないようにしてください。

注意:

積み荷の有る無しで運転の感覚に多少の差が出てきます。

過積載はハンドル操作をふらつかせ、安全な運転に影響を与えますのでしないようにしましょう。

注意:

- 火災による各部へのダメージを避けるために、エンジンとサイドカバーの間に布のような燃えやすい物を置かないでください。
- ダメージを防ぐために、指定された場所以外に物を置かないでください。

助言

車両のパフォーマンスを最高にし、寿命を長く保つために:

乗り始めて一ヶ月経過、または 1000km 走行したら、初回点検を受けてください。

6. 純正部品の使用

パフォーマンスをベストな状態に保つために、各部品の品質、素材、精密性について専用に作られたものを使用しましょう。“SYM 純正部品”はオリジナル部品同様、専用に作られています。純正部品は厳しく品質管理されていますので、一般の市場にはけっして出回ることはありません。部品等を交換する際は、SYM 認定ディーラーで“SYM 純正部品”を購入してください。安価な代替品を使用された場合、予測不能のトラブルやオートバイのパフォーマンスを下げる可能性があります。それらによる不具合は一切保証が適用されませんのでご注意ください。

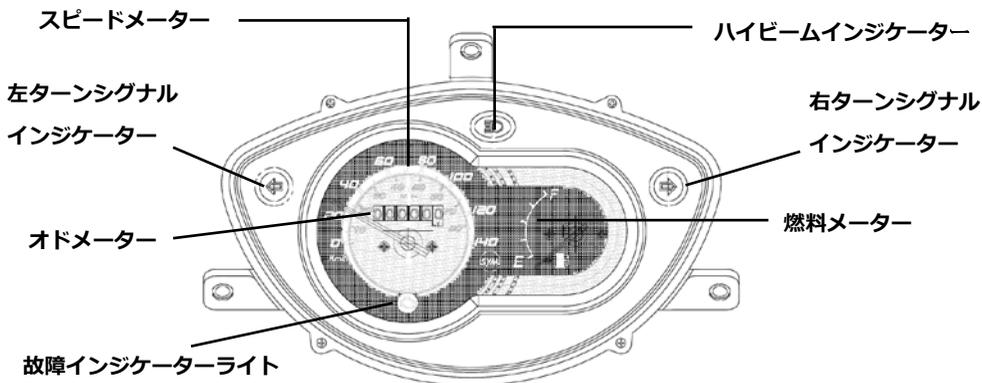
- 車両の状態をいつも良好に、寿命をより長く保つには SYM 純正部品を使用するようにしましょう。

7.各部の操作方法

(以下はSYM 4 ストローク空冷エンジンスクーターの基本的な操作です。各モデルにより異なる部分もございます。詳しくは巻末をご参照ください。)

§ゲージ§

スピードメーターパネルの形状はモデルにより異なりますが、各操作部の位置は概ね同じです。



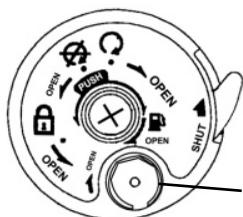
注意:

損傷を与える恐れがあるので、プラスチック部分（パネルやヘッドライトなど）をガソリンのような有機溶剤で拭かないでください。

- **スピードメーター：**
走行速度を示します
- **オドメーター：**
積算（累積）走行距離を示します
- **ハイビームインジケーター：**
ヘッドライトがハイビームになると点灯します
- **左/右ターンシグナルインジケーター：**
ターンシグナルスイッチを入れるとこのインジケーターが同時に点滅して知らせます
- **燃料メーター：**
燃料タンクの燃油残量を示します
スイッチを OFF にすると、針は E を示します
- **故障インジケーションライト**
ECU に不具合が発生すると常時点灯します

§イグニッションスイッチの操作方法§

イグニッションスイッチ



マグネットキーホール



“ON” ポジション:

- この位置でエンジンスタート可能になります。
- イグニッションキーを抜くことはできません。



“OFF” ポジション:

- この位置でエンジンは停止し、スタートはできません。
- イグニッションキーは抜くことができます。

§ハンドルロックスイッチの操作方法 §



“ハンドルロック” ポジション

- ステアリングハンドルを左側に切り、イグニッションキーを押し込みながら一度時計回りに回したのちそのまま左に回して「LOCK (ロック)」位置まで回します。
- ステアリングハンドルはこの位置で固定されます。
- イグニッションキーを抜くことができます。
- 解除にはキー位置を「LOCK (ロック)」から「OFF (オフ)」の位置に回します。



注意:

- シートをロックする前に必ずキーを帯同しましょう。

§燃料油キャップの開閉§



“燃料油キャップオープン” の位置を示します:

- 開けかた: イグニッションキーを差し込み、右に回します。
- 閉めかた: 燃料油キャップを押し込むことで、ロックされます。



§イグニッションの操作§

“OPEN” (オープン) 位置:

キーキャップ (イグニッションキーの蓋) はマグネットスイッチを操作することにより開けることができます。

“SHUT” (閉じる) 位置:

“SHUT” と記されたすぐ横にある黒いボタンを押すことで、キーキャップが飛び出し、イグニッションキー差込口の蓋が閉じます。

マグネティックキー：

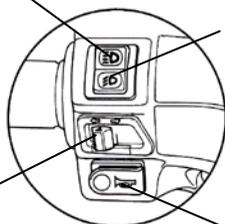
- ・マグネティックキーを鍵穴の上で操作することで、閉まっているふたを開くことができます。
- ・キーの蓋は、横のレバーを押し込むだけで閉じることができます。

⚠ 注意：

- ・走行中は決してイグニッションキーを操作しないこと。イグニッションスイッチを“OFF”あるいは“LOCK”の位置に操作すると、車両の電源が落ち、重大な事故につながる恐れがあります。従って、イグニッションキーは車両が完全に停止した状態でのみ操作してください。
- ・イグニッションキーを指したまま放置せず、ハンドルをロックしたのち、キーは必ず身に着けるようにしましょう。
- ・イグニッションスイッチを車両のエンジンが停止したのちにもそのまま ON の位置で放置した場合、バッテリーが消耗し、再始動が困難になる恐れがあります。
- ・イグニッションキーはシートをロックする前に必ず身に着けるようにしましょう。

§ボタンの使いかた§

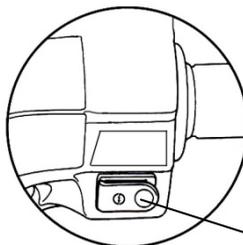
デイマースイッチ



パッシングスイッチ

ウィンカー スイッチ

ホーンスイッチ



セルフスターター

・セルフスターターボタン



エンジンを始動させるためにスターターモーターを始動するボタンです。

メインスイッチが“ON”の状態、このボタンをブレーキをかけながら押すことで、エンジンが始動します。

⚠ 注意：

- ・エンジンが始動したらすぐにこのスイッチから指を放してください。また、エンジンにダメージを与えるので、エンジンが動いている間はこのスイッチには触れないでください。
- ・安全のため、エンジンはフロントないしはリアブレーキレバーが引かれている時のみ、始動可能になっています。

・デイマースイッチ

このスイッチでヘッドライトの位置（ハイビーム／ロービーム）が切り替えられます。



こちらがハイビームの位置です。



こちらがロービームの位置です。街中ではこちらを使いましょう。

・パッシングスイッチ

Passing

イグニッションスイッチが“ON”の位置にある時、このスイッチを押すことでハイビームが瞬時に点灯し、前方の車両に警告を与えることができます。同時に、ハイビームインジケーター（警告灯）も点灯します。ボタンから手を放すとハイビームは消え、ボタンも元の位置に戻ります。

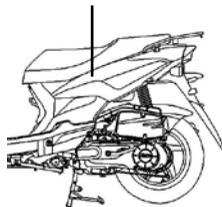
・エンジンスタートコントロールスイッチ

エンジンスタート コントロールスイッチ

このスイッチはシート下に隠されています。

“LOCK”位置：スイッチがこの位置にある時、エンジンの始動はできません。

“UNLOCK”位置：スイッチがこの位置にあれば、イグニッションスイッチを ON にすることで、エンジンの始動が可能になります。



ホーンスイッチ



イグニッションスイッチが“ON”の時にこのボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

・ウィンカースイッチ

ウィンカーは車両を右折、または左折させるとき、あるいは車線を移動するときに使います。

イグニッションスイッチが“ON”の時にこのスイッチを右または左に移動させることで、いずれかの方向のウィンカーが点滅します。

ウィンカーを消すには、スイッチをもとの位置に戻します。



右折時には、この右側のウィンカーを点滅させます。

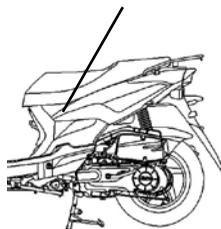


左折時には、この左側のウィンカーを点滅させます。

§ストレージボックス（ラゲージボックス）§

- ・シート下に荷物入れが用意されています。
- ・最大 5 kg までの重量物を収納することができます。
- ・貴重品は入れないでください。
- ・シートを押し下げの際、必ず確実にロックされていることを確認してください。
- ・万が一荷物が濡れないよう、洗車前に内容物は取り出しておいてください。
- ・エンジンの熱や、外気温に影響される恐れがあるため、熱に敏感な荷物は収納しないでください。

ストレージボックス



§ヘルメットフック§

- 車両を停止させたとき、ヘルメットを顎ひもやDリングを使って車両に取り付けることができます。

フック



⚠ 注意:

- 運転中にここにヘルメットを固定しないこと。車両に傷をつけたり、ヘルメットの安全性を損なう恐れがあります。

§燃料油キャップ§

1. イグニッションキーを差し込み、右に回すことで燃料油キャップが開きます。
2. 燃料を給油する際には、上限以上にまで入れないでください。
3. キャップの“△”マークとタンク側の“△”マークの位置を合わせ、キャップを強く押し込むことでキャップをロックさせることができます。

⚠ 注意:

- 給油中は安全のため必ずメインスタンドを使用し、エンジンを停止して火気厳禁で行うこと。
- 燃料は上限位置を超えて給油しないこと。燃料があふれ、車体や塗装に損傷を与える恐れがあるほか、最悪の場合、火災につながる恐れがあります。
- 燃料油キャップは確実にロックさせること。

§ブレーキ§

フロントブレーキを操作するには、右のブレーキレバーを引きます。

左ブレーキレバーの操作は、前後のブレーキを連動させます (CBSモデルのみ)。

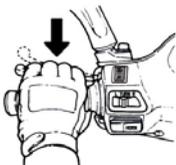
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。
- 制動時には前後ブレーキを同時に使用しましょう。
- ブレーキをオーバーヒート、あるいはフェードさせ、制動力を落とすことにつながる恐れがあるため、長時間にわたりブレーキをかけっぱなしで動かすことがないようにしましょう。
- 降雨時のようなすべりやすい路面では、速めに減速し、ブレーキも早めにかけるようにしましょう。スリップや転倒を避けるためにも、急ブレーキは避けましょう。
- 前だけ、あるいは後ろだけブレーキを作動させることは、車両の重心がどちらかに偏り転倒のリスクを増大させるため危険です。

《エンジンブレーキ》

スロットルグリップをもとの位置に戻すことで、エンジンブレーキを効果的に使いましょう。長い、あるいは急な坂では、前後のブレーキを併用して使用することが必要です。

CBS モデル

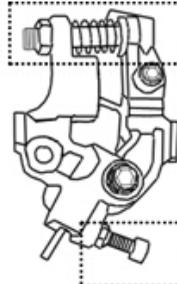
前後両ブレーキ



前ブレーキ



CBS の仕組み



⚠ 注意:

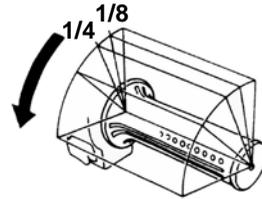
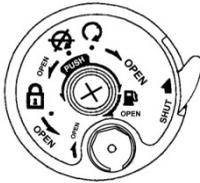
- CBS 関連ボルトの不必要な調整は行わないこと。
- 調整が必要な場合はSYM正規販売店で調整を受けること。

8.エンジン始動時に注意すべきこと

⚠ 注意:

- エンジン始動前に、オイルやガソリンが十分なレベルにあることを確認してください。
- 車体が突然動き出すことが無いよう、エンジン始動時には必ずメインスタンドがきちんと接地し、リアブレーキが握られているようにしてください。

- 1.イグニッションスイッチを”ON”の位置に回す。
- 2.リアブレーキを握る。
- 3.アクセルを開けず、ブレーキを握りながらスターターボタンを押す。



【エンジン停止までは安全のためリアブレーキを必ず握るようにしてください。】

⚠ 注意:

- キックスターターを 3-5 回使用してもエンジンがかからない場合、スロットルを 1/8-1/4 回転ほど開けてください。キックスターターで始動できるはずですが。
- スターターモーターへの負荷を避けるため、スターターを 15 秒以上連続して使用しないでください。
- 15 秒以上、スターターボタンを押してもエンジンがかからない場合は、10 秒待ってから改めてエンジン始動を行ってみてください。
- 車両をアイドリング状態で長時間放置した後や、完全にガソリンがない状態から再給油したばかりの時には、エンジンがなかなかかからないことがあります。こうした場合、スターターボタンを何度か押す必要がありますが、スロットルは閉じたままで行います。
- エンジンが完全に冷えている時は数分間の暖気運転が必要な場合があります。
- 排気ガスには人体に有害な成分 (CO) が含まれています。エンジン始動は換気の良い場所で行ってください。

【キックスターターでの始動の場合】

- 上記の 1-3 のステップを実行し、スロットルは閉めたままで、キックアームを足で踏み下げます。
- エンジンが冷え始動が困難な場合は、スロットルを 1/8~1/4 回転ほど開けると始動しやすくなります。
- エンジンが始動したら、キックアームは元の位置に戻しましょう。

⚠ 注意:

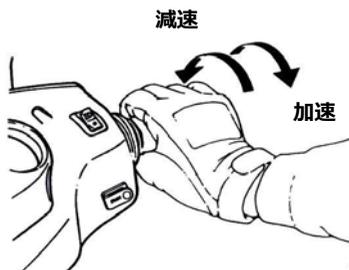
- エンジン始動前に、車両はメインスタンドを使って確実に接地させましょう。
- キックスターターを使う始動は、その機能が長期間使用しないことで損なわれたりしないよう、時々行いましょう。

9. 車両をきちんと停止させましょう

- 車両停止位置に移動する前にウィンカーを点灯させ、後方からほかの車両が来ないことを確認してから、車両を停止させましょう。

§スロットルの操作について§

- 加速：** スピードを上げる場合、あるいは坂を上げる場合などは、スロットルをゆっくりと開けエンジンの出力を増加させます。
- 減速：** スピードを減速させます。



§駐車方法 §

- 駐車場に近づいたとき:
 - 1.速めにウィンカーを点滅させ、周囲のほかの車両の動きに十分注意しながら、路側車線にゆっくりと入ります。
 - 2.スロットルを閉じ、ブレーキを早めに効かせます。ブレーキライトを点灯させ、後方の車両に警告を与えます。
- 完全に車両を停止させるとき:
 - 3.ウィンカーを戻し、イグニッションキーを OFF の位置まで回してエンジンを停止させます。
 - 4.エンジンの停止を確認したら、車体の左側から降車します。交通の妨げにならない水平な路面で安全に駐車できる場所を探し、車両をメインスタンドを使って自立させます。
 - 5.左手でハンドルを持ち、右手でシート下にあるパーキングハンドルを持ちます。
 - 6.メインスタンドを右足で抑え、地面にしっかりと押し下げます。

忘れないこと：盗難防止のためにも、車両を停車させたらハンドルをロックさせ、キーを抜くこと。

△ 注意：

- 車両は交通の妨げにならない、安全な場所に停車させること。

10.乗車前点検について

(それぞれの装置、部品名は別項の図を確認すること。)

§定期点検§

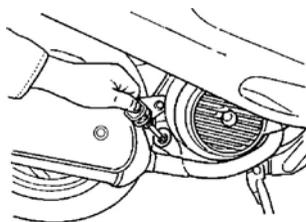
確認項目		確認・点検内容
エンジンオイル		エンジンオイルは十分に入っているか?
燃料 (ガソリン)		ガソリンは十分に入っているか? オクタン価は90以上か?
ブレーキ	フロント	ブレーキの状態は? (ブレーキレバーの遊びは: 10~20mm)
	リア	ブレーキの状態は? (ブレーキレバーの遊びは: 10~20mm)
タイヤ	フロント	タイヤ空気圧は正常か? (標準値: 1.75kg/cm ²)
	リア	タイヤ空気圧は正常か? (標準値: 1名乗車時2.0 kg/cm ² 、2名乗車時 2.25 kg/cm ²)
ステアリングハンドル		ハンドルに異常な振動があったり、旋回が困難だったりしないか?
スピードメーター、灯火類、ミラー		正常に動作しているか? 灯火類は点灯するか? 後方をきちんと見ることができるか?
主要部品の確実な締結		ボルトやナット、ファスナーにゆるみはないか?
異常個所の確認		過去の異常は再発していないか?

⚠ 注意:

- 定期点検中に異常が発見された場合、問題点は車両使用前に修復すること。必要に応じて、SYM正規販売店で点検あるいは修理を行うこと。

§エンジンオイルの点検及び交換§

- 点検:
 - 水平な路面でメインスタンドで車両を直立させ、エンジン始動後 3-5 分後にディップスティックを外し、油分をふき取り確認します。再びディップスティックを挿入しますが、入れるだけで締め付けは行わないでください。
 - ディップスティックを抜き、オイルレベルが最小と最大の間にあることを確認してください。
- 最小値以下の場合、最大値までオイルをつぎ足します(シリンダー、クランクケースなどのオイル漏れを点検します)。



オイル交換:

- ・ 初回 300km 走行後、その後は 1000km 走行ごとにオイル交換を行います。
- ・ エンジンの能力を最大限発揮するため、500km 走行ごとに残量点検を行うこと。オイル量の不足が見られた場合、最大値までエンジンオイルをつぎ足すこと。
- ・ エンジンオイルは、(API)SJ MA 10W-30 グレード相当の商品が同等品以上を使用のこと。SM 10W-50 が望ましい。モータリストでは MOTUL 3100 GOLD を推奨。非推奨油脂の使用によるエンジンの損傷は保証の対象外になります。
- ・ オイル容量 : 0.8 L (定期交換時は 0.70 L)。
- ・ 外気温が氷点下になる場合は、SAE 5W-40 を使用のこと。

【オイルフィルターの洗浄】

オイルフィルターナットからオイルフィルターを取り外し、ごみなどがあれば取り除いたうえでガソリン、もしくは高压空気で洗浄します。

⚠ 注意:

- ・ オイルレベルは、非水平面や、エンジン停止直後に点検しないこと。
- ・ エンジンやマフラー、排気管はエンジン停止直後は高温です。エンジンオイル点検時にはやけど等に十分に注意してください。
- ・ オイル補充後も再びオイルレベルが下限値を下回ってしまう場合、エンジン周辺のオイル漏れを点検し、再度補充してください。
- ・ オイル補充時には火気厳禁を徹底してください。



オイルフィルター



フィルターナット

水分などの混入を避けるために

1. 定期的にエンジンをかけること
2. 始動ごとに、数分間以上走らせること
3. 月に 1 度、10km 以上走ること
4. 3 カ月または 1000km ごとにオイル交換を行うこと

§燃料の点検§

- ・ イグニッションキーを“ON”の位置に回し、燃料ゲージの針が走行に必要な充分な値を示していることを確認しましょう。
- ・ この車両のエンジンは 90 オクタン以上の無鉛ガソリンで動くよう設計されています。
- ・ 給油の際には、火気厳禁を徹底したうえで、水平面に確実にメインスタンドを用いて車両を立て、エンジンを停止してください。
- ・ 給油は、タンクの上限表示を超えないようにしてください。
- ・ 燃料油キャップが確実に閉められていることを確認してください。

§トランスミッションオイルの点検と交換§

点検:

- ・ 車両を水平面にメインスタンドを用いて安定させ、エンジン停止後 3~5 分ほど待つ。
- ・ トランスミッションオイル補充ボルトを抜き、ドレンボルトの下に計測カップなどを置いてドレンボルトを外す。計測カップ内に出たオイルを点検し、量の確認を行う(125 ccの場合、エンジン分解時:180c.c./オイル交換時:170c.c. 50 ccの場合、エンジン分解時:100.c.c./交換時:90c.c.)。

オイル交換:

- ・ エンジンを停止し、水平面にメインスタンドを使用して車両を保持。オイル補充ボルトとドレンボルトの双方を外し、オイルを排出する。
- ・ ドレンボルトを締め付ける。新しいトランスミッションオイルを入れ、補充ボルトを締め付ける。ボルト周辺に漏れなどないことを確認する。
- ・ MOTUL GEAR BOX SAE 80W-90 の使用を推奨します。

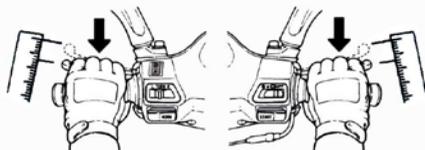
§ブレーキの遊びの点検及び調整§

点検: (ブレーキレバーの遊び点検は、必ずエンジン停止時に行うこと)

- ブレーキレバー及びペダルの遊びについて

◆フロントブレーキレバーの遊び(ブレーキが効き始めるまでの距離)は10~20mmです。ブレーキの握りしろが異常に多いと感じられるような場合、ブレーキの異常を疑ってください。

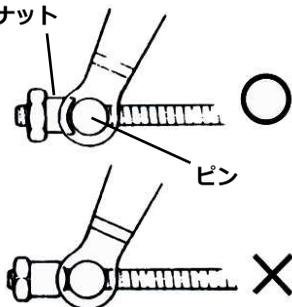
10~20 mm



調整: (ドラムブレーキの場合)

- ブレーキ調整ナットの向きは必ずピンに添わせるようにしてください(下図参照)。

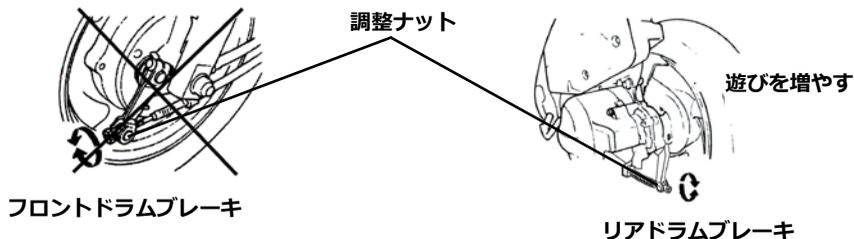
調整ナット



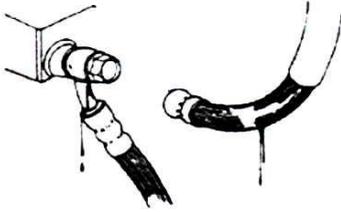
⚠ 注意:

遊びが10~20mmに設定された状態で、ブレーキインジケータを確認すること。インジケータの矢印がブレーキドラム表面の“△”と合致した場合、ブレーキライニング(シュー)の残量がなく、交換が必要なことを示しています。

- 調整ナットを締め込み、レバー側の遊びを調整します。
- 調整後、ブレーキレバーを握りこみ、効きを確認します。
- 遊びは物差し(定規)できちんと確認をしてください。



§ディスクブレーキの点検



(漏れ、損傷、ゆるみ)

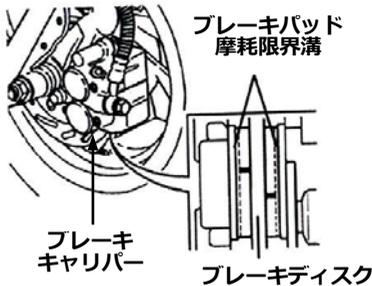
・ブレーキホースを目視点検し、漏れや損傷がないことを確認する。ホースの接続部分にゆるみがあった場合は修正し、ステアリングに伝わる振動や、その他部品等の干渉がブレーキホースに損傷を与えていないかをよく点検する。以上があった場合は、SYM 正規販売店にて修理や整備を依頼してください。

⚠ 注意:

- ・ 乾いた路面で車両をゆっくりと走らせ、前後のブレーキを試用することで、ブレーキの誤作動がないことをよく点検し、安全に運転できることを確認すること。

(ブレーキパッド残量の点検)

- ・ ブレーキキャリパー後ろ側から点検し、パッド残量を確認します。パッドの摩耗限界に達していたら、パッドを交換して対応してください。

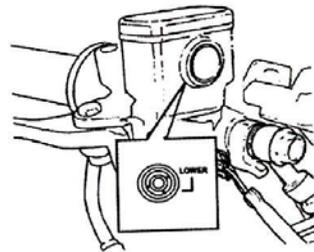


(フロントブレーキ液の交換)

1. スクリューを緩め、マスターシリンダーカバーを取り外します。
2. 異物を丁寧に点検し洗浄し、リザーバーに異物が噛みこんでいけないよう、丁寧に作業してください。
3. ダイヤフラム及びベースプレートを取り外します。
4. ブレーキ液を上限まで入れます。
5. 取り外し時と逆の手順で組み付けてください。
6. ダイヤフラムの向きに注意し、また、組付け時にはいかなる異物をも許さないよう、丁寧に組み付けてください。

(リザーバータンク内のオイル量の点検)

- ・ 車両を水平面に駐車させ、ブレーキ液が下限より下回らないようにします。交換には推奨ブレーキ液 MOTUL DOT3 & 4 を使用してください。



⚠ 注意:

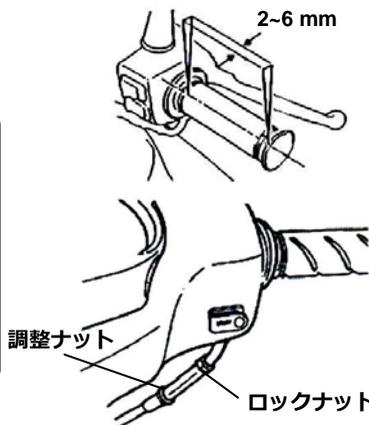
- ・ 化学反応による異常を避けるため、ブレーキ液には純正指定商品をお使いください。
- ・ ブレーキ液を補充するときは上限線を超えないように、なお、溢れたブレーキ液は塗装上面やプラスチック部品を傷らす恐れがあるため十分注意してください。

§スロットルの遊びの調整§

- スロットルの遊びは 2~6mm です。
- ロックナットをまず緩め、次いでアジャストナットを緩めて調整します。調整後、ロックナットを確実に取り付けてください。

点検項目:

1. スロットルケーブルを点検し、全開から全開までスムーズに動くよう点検する。
2. ハンドルを左右いっぱいまで切り、スロットルケーブルに引っ掛かりがないかを確認する。
3. スロットルケーブルが他のケーブル等と干渉せず、正しく使用できているか点検する。

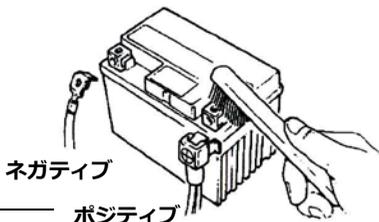


§バッテリーの点検と保守§

- この車両はメンテナンスフリーバッテリーを搭載しています。このため、定期的な点検や電解液の補充等は一切不要です。もし異常があった場合は、SYM 正規販売店に車両をお見せください。

(バッテリー端子の点検)

- バッテリー端子を取り外し、汚れやさびなどが発生していないか点検しましょう。
- バッテリーの取り外しは以下の手順です。
イグニッションスイッチを“OFF”にし、ネガティブ（マイナス）端子側を最初に取り外します。次いで、ポジティブ（プラス）端子側を取り外してください。



⚠ 注意:

- バッテリー端子を温水で清掃し、白い粉などの汚れを取り去ってください。
- 端子に明らかな腐食が見られる場合、ケーブルを外し、スチールブラシやサンドペーパーなどで腐食を丁寧にはがし、清潔にしてください。
- バッテリーターミナルを清掃後、薄くグリースアップしケーブルを取り付けます。
- バッテリーの取り付けは、取り外しの逆の要領で行います。

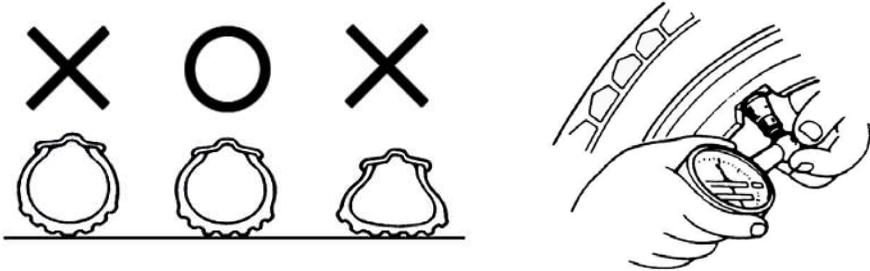
- この車両にはメンテナンスフリータイプのバッテリーが搭載されています。このため、定期的な点検や電解液の補充は不要です。異常が見受けられた場合は、SYM 正規取扱店に車両を点検するよう依頼してください。

⚠ 注意:

- このバッテリーは密封型です。キャップを取り外さないでください。
- 漏電や充電不足にならないよう、長期間バッテリーを使用しないまま放置しないこと。必要に応じてバッテリーを車両から取り外し、満充電したのち、通気性の良い冷暗所で保管すること。車両から取り外せない場合、バッテリーのネガティブ（マイナス）端子を取り外しておくこと。
- バッテリー交換が必要な場合には、同型の密閉型（メンテナンスフリー型）バッテリーと交換すること。

§タイヤの点検§

- タイヤの点検や空気の補充は、エンジン停止中に行ってください。
- タイヤの接地面に異常がみられる場合、エアゲージでタイヤの内圧を測定し、必要に応じて指定値まで補充してください。
- タイヤ空気圧は、タイヤが冷えている時にエアゲージで測定してください。



指定空気圧を必ず確認してください



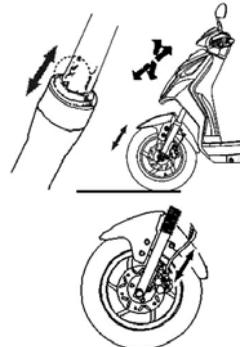
- 目視でタイヤの表面や側面を点検し、ひび割れ、ダメージなどが無いことを確認します。
- タイヤのトレッド面を目視点検し、釘や小石などが噛みこんでいないか確認してください。
- 「トレッドウェアインジケーター」（摩耗限界指標）を確認し、タイヤの残溝が十分かを点検します。
- インジケーターが露出している場合、タイヤの損耗が進んでいるものとし、速やかにタイヤを交換してください。

⚠ 注意:

- 異常な空気圧、摩耗、ひび割れなどは、タイヤのパンクやハンドリングの悪化につながります。

§ステアリングおよびフロントサスペンションの点検§

- この点検は、エンジン停止状態でイグニッションキーを取り外した状態で行ってください。
- フロントサスペンションに損傷がないか目視点検します。
- ステアリングを上下に動かし、フロントサスペンションから異音が聞こえたり、凹みがないことを確認します。
- フロントサスペンション取り付けにガタや、ゆるみがないかを点検します。
- ステアリングを上下左右前後にゆすり、ゆるみがあったり、抵抗があったりしないかを点検します。
- ハンドルがブレーキホースなどで引っ張られて、動き辛くないか点検します。
- 異常が見受けられた場合、SYM 正規販売店に車両を持ち込み、点検または修理を依頼してください。

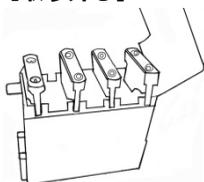


§ヒューズの点検及び交換§

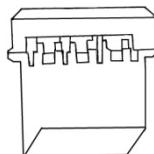
イグニッションスイッチをオフにし、ヒューズに異常がないか点検します。焼けたヒューズは、新品の同じ容量のものに交換してください(20A/15A*2/10A)。指定された容量より大きなヒューズを用いると、電装系や回路に大きなダメージを与える恐れがあるため、絶対に行わないでください。

- ラゲージボックス(シート下)を取り外すと、バッテリーのすぐそばにヒューズボックスがあります。
- ヒューズボックスカバーを開けヒューズを取り外し、それぞれのヒューズに損傷がないかを確認します。
- ヒューズを交換する際、コネクタに確実に挿入するよう注意してください。接触不良は、過熱や損傷の原因につながりますので注意してください。
- ライトバルブ等の電装関連部品は、必ず指定された容量のものを使用してください。指定のものを使用しない場合、ヒューズの焼損やバッテリーの過充電につながる恐れがあります。
- 洗車するときは、水滴がヒューズ周りにかからないよう注意してください。
- 新品のヒューズがまたすぐに焼損するような場合、再度交換する前にその原因を明らかにするようにしてください。原因不明でヒューズが焼損する場合は、車両を販売店に持ち込むことをお勧めします。

【取り外し】



【取付】



§ウィンカー及びホーンの点検§

- イグニッションスイッチを ON の位置に回します。
- 前後左右それぞれのウィンカーの点滅、及びホーンが鳴るかを確認します。
- ウィンカーの外観を点検し、割れ、汚れ、くすみ等がないか確認してください。
- ホーンボタンを押し、確実に作動することを確認します。

⚠ 注意:

- ウィンカーの正常な動作を妨げる恐れがありますので、指定容量以外のバルブは使用しないでください。
- 車線変更や右左折時はウィンカーを点灯させ、周囲の車両に注意を促してください。
- 周囲の車両が混乱することが無いよう、ウィンカーは必要な方向指示が終了した後、速やかにボタンを押しキャンセルしてください。

§フロント及びリアライトの点検§

- エンジンを開始後ヘッドライトが自動点灯することを確認し、テールライトも同時点灯することを確認します。
- ヘッドライトの明るさ、光軸がずれていないかなど、壁などにライトを照射して確認します。
- ヘッドライトカバーが汚れていないか、ひび割れやくすみなどが点検します。

§ブレーキライトの点検§

- イグニッションキーを ON の位置に回してブレーキレバーを前後それぞれ引き、ブレーキ灯の点灯を確認します。
- ブレーキライトのカバーが汚れていないか、ひび割れやくすみなどが点検します。

⚠ 注意:

- 必ず指定された容量、仕様のバルブだけを使用すること。誤使用は電装系の損傷やバルブの焼損、バッテリーの異常消耗につながります。
- 電装部品の改造や不必要な電装部品の取り付けは、車両の焼損、過充電、過放電、短絡などの重大事故につながる恐れがありますので行わないでください。

§燃料漏れの点検§

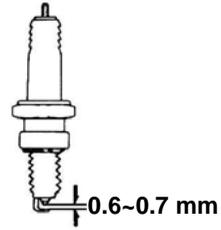
- 燃料タンク、燃料油キャップ、燃料ホース、キャブレターからの漏れはないか点検します。

§車体の各部分の注油が適切にされているか点検する§

- 車体のピボットポイント（可動部分）、例えばメインスタンドのピボット、サイドスタンドのピボット、ブレーキレバーなどが十分に潤滑されているか点検します。

§スパークプラグの点検§

- スパークプラグキャップを外し、付属工具内のプラグレンチを使用して、スパークプラグを取り外します。
- 電極の汚損、カーボンの堆積などを点検してください。
- カーボンの堆積はスチールワイヤなどで除去し、スパークプラグをガソリンで洗浄し、乾いた布等でふき取ります。
- 電極を点検し、プラグギャップをシックネスゲージを用いて0.6~0.7 mm となるよう調整します。
- プラグの取り付けは、まず手で十分な位置まで締め込んでから、レンチで最後の 1/2~3/4 回転を締めこんでください。



⚠ 警告:

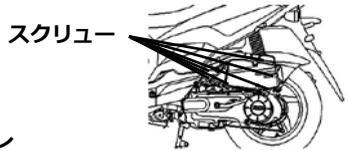
エンジンは運転後は高熱になっています。火傷などに十分注意してください。

※必ず指定仕様のスパークプラグを使用してください。

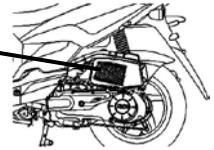
§エアクリーナーの点検§

《取り外し手順》

- エアクリーナーカバーの取り付けスクリューを外します。
- エアクリーナーカバーを取り外し、次いでエアクリーナー・エレメントを取り外してください。
- エレメントを洗浄します（点検スケジュールを確認）。



エレメント



《取付手順》

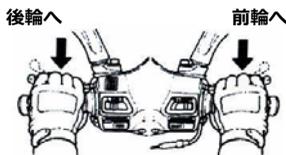
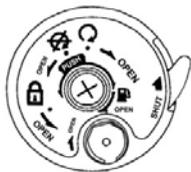
- エアクリーナーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

⚠ 注意:

- エアクリーナーの汚れは、エンジン出力の低下や燃費の悪化の最大の要因の一つです。
- 車両を頻繁に埃の多いような場所で走らせる場合は、こまめにエアクリーナーエレメントを清掃することで車両の寿命を延ばすことが可能です。
- エアクリーナーが正しく装着されていないと、埃などがエンジン内部に侵入しエンジンの消耗を早め、出力が損なわれるばかりか寿命を縮めることにつながります。
- 洗車の際には、エアクリーナーを水に漬からせることが無いよう注意してください。エンジン始動困難を引き起こす原因になります。

11. 異常やトラブルに見舞われた際には

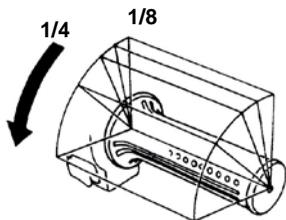
§エンジンが始動できない場合の診断§



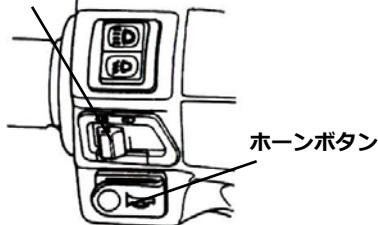
(1). イグニッションスイッチは ON 位置になっていますか？

(2). 燃油残量は十分ですか？

(3). スターターボタンを押すとき、フロントまたはリアブレーキレバーは引いていますか？



ターンシグナルスイッチ



(4). スターターボタンを押す間、スロットルグリップは開けていますか？

(5). イグニッションスイッチを ON にし、ホーンボタンを押しても鳴らないときは、ヒューズが焼損している可能性があります。

【上記各項を点検し、異常が見られないにもかかわらずエンジンが始動できない場合は、ご購入の SYM 正規販売店に連絡してください】

12. ガソリンについて

- この車両は無鉛 90 オクタン以上のガソリンを使用するよう設計されています。
- 車両を高地で使用する場合（気圧が低い場合）、空燃比を調整し、エンジンの出力を適正化することをお勧めします。

13. トランスミッションオイル

- 推奨品は MOTUL GEARBOX 80-90W もしくは SAE 85W-140 相当品です。

14. 車両乗車時の注意

1. 車両をメインスタンドで直立させ、シートに着座してください。

車両を前方に押し出し、メインスタンドを外します。

 注意:

- 走り出す前には、決してスロットルをひねり、エンジン回転数を上昇させないこと。

2. 車両に左側から乗り込み、シートに正しく着座し、右足を確実に着地させ転倒が無いよう備えます。

 注意:

- 出発前はリアブレーキレバーを握っておくこと。

3. ゆっくりとスロットルを開け、車両を走らせます。

 注意:

- スロットルを急に開けたり、クラッチレバーを突然離すことは、車両を急激に動かすことにつながり、大変危険です。
- 発信前に、サイドスタンドが確実に格納されていることを確認してください。

【急ブレーキの使用や急旋回は避けること】

- 急ブレーキや急旋回は、スリップや転倒の原因になります。
- 特に降雨時など、路面が滑りやすくまた濡れているときには、急ブレーキや急旋回は車両を縦方向にスリップあるいは転倒させる原因になります。

【降雨時は特に注意して運転すること】

- 降雨時やぬれた路面では、制動距離は乾燥した路面よりも長くなります。早めに減速し、ブレーキも早めに適用してください。
- 下り坂ではスロットルを閉じ、ブレーキを適切に用いて減速させてください。

15. 定期点検スケジュール

番号	点検項目	メンテナンス距離	300KM	1000KM 毎	3000KM 毎	6000KM 毎	12000KM 毎	備考
		メンテナンス期間	新車	1か月	3か月	6か月	1年	
1	エアクリナーエレメント		I	C		R(乾式)	R(湿式)	
2	エアクリナー		I		C			
3	オイルフィルター(スクリーン)		C			C		
4	燃料ポンプフィルター			10000KM走行ごとに交換				
5	エンジンオイル		R	I	3000KM走行ごとに交換			
6	タイヤ及び空気圧		I	I				
7	バッテリー		I	I				
8	スパークプラグ		I		I		R	
9	キャブレター(アイドル回転数)		I			I		
10	ステアリングベアリング/ハンドル		I		I			
11	トランスミッションからの漏れ点検		I	I				
12	クランクケースからの漏れ点検		I	I				
13	トランスミッションオイル		R	5000KM走行または5か月ごとに交換				
14	ドライブベルト/ローラー					I	R	
15	燃料タンク、スイッチ、ホース		I		I			
16	スロットル及びケーブル		I	I				
17	エンジンのボルト、ナット類の締結		I		I			
18	シリンダー、ヘッド、ピストン					I		
19	排気システム/カーボンの除去					I		
20	カムチェーン/イグニッションタイム		I		I			
21	バルブクリアランス		I			I		
22	ショックアブソーバー		I			I		
23	ショック・テンションロッド			10000KM毎に点検、30000KM毎に交換				
24	F/Rサスペンション		I			I		
25	メイン/サイドスタンド		I			I/L		
26	ブローバイシステム(PCV)		I		I			
27	クラッチディスク					I		
28	ブレーキシステム/ライニング(バ		I	I				
29	締結ボルト/ナット		I	I				

☆上記点検スケジュールは、月間 1000km 程度の走行がなされることが前提で組まれています。距離、期間のいずれか早い方で上記点検を行ってください。

記号: I ~ 点検、清掃、調整 R ~ 交換
C ~ 清掃 (必要に応じて交換) L ~ 注油

備考: 1. 車両の使用環境が極めて埃っぽい、あるいは環境汚染の進んだ状況下の場合、エアクリナーエレメントの清掃・交換はより頻繁に行うこと。

2. 高速で走らせることが多く、距離を走るような場合は、点検はより頻繁に行うこと。

【備考欄には対象モデルに対しての適用を掲載しています】

16. 諸元

アイテム	モデル	XE05W2-EU	
	仕様		
全長		1915±20 mm	
全幅		680±10 mm	
全高		1125±20 mm	
軸距		1290±20 mm	
車両重量		107±5kg	
エンジン型式		4ストローク単気筒	
燃料		無鉛ガソリン(90オクタン以上)	
圧縮比		11.0±0.2:1	11.0±0.2:1
最大出力		2.2kw/8000 rpm	2.2kw/6000 rpm (25km/h制限モデル)
最大トルク		3.0N.m/6000 rpm	3.2N.m/5500 rpm (25km/h制限モデル)
始動方式		セルフスターター (エレクトリカルスターター)	
懸架装置 (前)		テレスコピック	
懸架装置 (後)		ユニットスイング	
クラッチ		自動遠心式	
トランスミッション		CVT	
フロントタイヤ		110/70-12 47J	
リアタイヤ		120/70-12 51J	
ホイール		アルミニウム	
タイヤ空気圧		フロント: 2.00 kg/cm ² リア: 1名乗車時 2.00kg/cm ² / 2名乗車時 2.25kg/cm ²	
フロントブレーキ		ディスク式 (Ø 226 mm)	
リアブレーキ		ドラム式 (Ø 110 mm)	
ヘッドライト		12V 35W/35W *1	
ポジション灯		12V 5W *1	
テール/ストップライト		12V 5W /21W *1	
ウinker		12V 10W *2/12V 10W *2	
エンジンオイル容量		0.8L (交換時0.7 L)	
トランスミッションオイル容量		100c.c (交換時90c.c)	
燃料タンク容量		6.2±0.2 L	
ヒューズ		20A*1&15A*2&10A*1	
スパークプラグ		CR6HSA	
バッテリー容量		YTX7A-BS	
エアクリナー		乾式 (ペーパー式)	

16.諸元

モデル	
アイテム	仕様
	XE12W2-EU
全長	1900±20mm
全幅	682±10mm
全高	1120±20mm
軸距	1320±20mm
車両重量	115±5kg
エンジン形式	4ストローク単気筒
燃料	無鉛ガソリン (90オクタン以上)
圧縮比	10.68±0.2:1
最高出力	8.4kw/8500 rpm
最大トルク	10.3N.m/6500 rpm
始動方式	セルフスターター (エレクトロリカルスターター)
前部懸架装置	テレスコピック
後部懸架装置	ユニットスイング式
クラッチ	自動遠心式
トランスミッション	CVT
フロントタイヤ	110/70-12 47J
リアタイヤ	120/70-12 51J
ホイール	アルミニウム
タイヤ空気圧	フロント: 2.00 kg/cm ² , リア: 1名乗車時2.00kg/cm ² / 2名乗車時2.25kg/cm ²
フロントブレーキ	ディスク式 (Ø 226 mm)
リアブレーキ	ドラム式(Ø 130 mm)
ヘッドライト	12V 35W/35W *1
ポジション灯	12V 5W *1
テール/ストップライト	12V 5W *1/12V 21W *1
ウィンカー	12V 10W *2/12V 10W *2
エンジンオイル容量	0.95 L (交換時0.70 L)
トランスミッションオイル容量	180c.c (交換時170c.c)
燃料タンク容量	6.2±0.2 L
ヒューズ	10A*1&15A*2&20A*1
スパークプラグ	CR7HSA
バッテリー容量	YTX7A-BS
エアクリーナー	乾式 (ペーパー式)



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。